

一般質問通告書

【第70回定例会】

多可町議会議長 河崎 一 様

多可町議会議員 藤本 英三



受 領 日	番号
平成 28 年 5 月 27 日 午前・午後 2 時 40 分	2

質問の項目及び要旨	答弁を求める者
1. 熊本大震災を教訓にせよ	町長
<p>この4月14日に震度7の熊本大震災が発生いたしました。その2日後に本震が起き、その後今日まで余震が続いておりますが、この1か月間、新聞やテレビでは、救援物資の配布方法や被災者に対する対応や、ボランティアや各自治体の支援の受け入れのまずさ、り災証明書の遅さ等が、よく報道されておりますが、もし仮に多可町があのような地震災害が起これば、即座に対応はできるでしょうか。あらゆる面をシミュレーションして、実施訓練が必要ではないか。</p>	
2.	
3.	

質 問 の 内 容

熊本大震災の教訓を活かせ

今年の4月14日の21時26分に震度7の前震が熊本地方に発生いたしました。

その2日後にも同じく震度7の本震が発生し、死者49名行方不明1名の他、家屋の全壊や半壊をはじめ九州新幹線の脱線・高速道路の通行止め・一般道の亀裂・山崩れ・ライフラインの寸断等数え切れないぐらい数多くの被害が出ました。

この度、被災に遭われました方々には心からお見舞い申し上げます。

1ヶ月以上も経っているのに震度1以上の余震が1000回以上続いております。

地震直後は10万人以上の方が避難所生活や車生活を送っておられました。まだ未だに4万人近い方が避難生活を強いられております。

震災が起きてからマスコミは、熊本地方の連日放送しておりますが、被災者の方々に対しての対応がじれったく感じるのは私だけでしょうか。確かに余震が1ヶ月以上続いていることや、交通手段やライフラインが寸断されたりして、現地に救援に行けなかったのが後手々となったのが事実であります。そこで多可町も常日頃から、この度の震災を教訓にし、次の項目について計画とシミュレーションが必要ではないでしょうか。

- ①全国各地からの救援物資・食料の保管と配給方法
- ②町内外の出入りルートと町内の運行ルートのシミュレーション
- ③高齢者・障がい者・妊婦・乳幼児等の弱者の避難場所の確保
- ④各地方自治体や全国各地からのボランティアの方のスムーズな受け入れ体制
- ⑤もし仮に自動車避難するならば、避難場所の確保
- ⑥仮設住宅の設置場所確保
- ⑦生活再建支援のための、り災証明書のスムーズの発行
- ⑧ライフラインの（水道・下水道）原図の確認等

多可町は豪雨災害時の防災行動計画（未だない集落もある）や防災マップはすでに策定され、各集落にも周知されておりますが、震災計画も早急に必要ではないでしょうか。町長のご所見をお尋ねいたします。